

ス テ ー ジ ア ッ プ

# Stage Up

## 主な記事

- ・心をひとつに  
「川崎マンドリン倶楽部」
- ・真剣に楽しもう！  
「川崎ラージ球友会」
- ・特集 川崎学  
～川崎って面白い～

## 詳細・他

### ◆ 施設めぐり

- ・かわさき宙と緑の科学館  
宙も緑も市民とともに！
- ・川崎市平和館  
平和を願い、非平和に思いを巡らす

### ◆ 財団からのお知らせ

- ・陶芸教室  
陶芸作品が出来上がるまで  
(手びねり編)
- ・お楽しみコーナー  
クイズに答えよう！

COLORS  
KAWASAKI

「Colors かわさき展」は、作者に障がいがあるか・ないかということにとらわれず、一つひとつ作品と向き合い、ありのままの魅力を感じてもらうことを目指す展覧会です。

障がいのある人もない人も共に親しむことができる文化芸術活動の環境づくりを進める「パラアート推進事業」の一環として、(公財)川崎市文化財団が年1回開催しています。



## Colors かわさき 展より② ヤギ モトキ 「魔人大戦」 2021年 水性ペン

立ち向かう3人の戦士をメインに中央に描き、周りの魔人たちが遠くから襲ってきたり、上部分には雷を放つ邪神をラスボスとして迫力を大きく表現しました。これまで描いてきた作品よりポスターになりそうな遠近感を生み出すことができました。とある暗闇で邪神が魔人を率いて3人の戦士と戦っているところを思い浮かんで描きました。(本人)



発行・(公財)川崎市生涯学習財団

〒211-0064 川崎市中原区今井南町 28 番 41 号

TEL 044-733-5560(代) FAX 044-739-0085

https://www.kpal.or.jp/ E-mail: stage-up@kpal.or.jp



## 心をひとつに 「川崎マンドリン倶楽部」

川崎マンドリン倶楽部(以下、「川マン」と略)は、日本のマンドリン音楽界の発展に尽力された故市川昇さんが、「川崎市に社会人マンドリン倶楽部を」との思いから、戦後すぐの1948(昭和23)年にアサ子夫人と共に立ち上げた、歴史ある倶楽部です。



▲練習風景

### マンドリン大好き 合奏大好き

スタート当初は12名、それが1969(昭和44)年には約80名の大所帯になりました。その頃は会社勤めや公務員が多く、平均年齢も若かったとのこと。現在は60~80歳の約30名が、年1回の定期演奏会を目標に、月2回、市民館等で練習に励んでいます。学生時代にマンドリンやギターを弾いたことがあり、社会人になって楽器から離れていたけれども、定年などを機にしまい込んでいた楽器を取り出して…という部員が多いとのこと。マンドリン音楽が大好きで、一人で弾くのもいいけれど、やはり大勢で合奏する充実感や高揚感を味わいたい、合奏を楽しみたいというのが部員共通の思い。コロナ禍でどの団体も苦労しているようですが、マンドリンやギターは声を出さずに手元で奏でる音楽なので、しっかりとマスクをして、隣の人との間隔をあけて、換気をして、という基本的な対策が取りやすかったこともあり、集まって練習を続けることができました。

**マンドリン**は8本の弦を持つ複弦楽器(2本1セットで調弦)で、17世紀前半のイタリアで生まれました。ヴァイオリンと違って指板にはフレットがあり、弓ではなくピックを使って演奏します。

▲(左)マンドリン  
(右)マンドラ

19世紀後半に現代にも通じる演奏法が確立され、「マンドリン、マンドラ・テノール、マンドロンチェロ、マンドローネ、クラシックギター」という、現代におけるマンドリンオーケストラ編成も考案されました。

最大の特徴はトレモロ演奏でしょう。マンドリンはギターと同じ撥弦楽器であるため、音を持続させることが出来ません。そこでピックを小刻みに上下させ単音を連続させることにより、疑似的に音を持続させる演奏手法がとられます。トレモロによる音色は独特の哀愁があり、マンドリンの魅力の一つにもなっています。

◀複弦を持つため、他の弦楽器にはないユニークな響きがあるのも特徴



### プロの支援も刺激に

創設者の自宅を練習会場としてスタートした川マンは、伝統的に家庭的な雰囲気のある倶楽部。練習中も、練習後も和気あいあいとしています。そのような中、刺激を与えてくれる存在が創設者のお孫さんである市川雅典さん。スケジュールの調整が叶えば、プロのコントラバス奏者の雅典さんが、練習や本番で指揮をしてくださったり、音楽アドバイザーとして指導してくださったりします。「趣味の集まりだけれども、プロの音楽家と接点があるというのはやはり刺激があります。川マンでは奏者も兼ねる男女2名の指揮者のもとで練習を頑張っています。コロナ禍でも集まりはいいですよ」と、現在の代表を務める田畑弘明さんが笑顔で話してくれました。

### マンドリン音楽を広めたい



▲2022年1月10日 第79回 定期演奏会

川マンとして部員全員と一緒に舞台上上がるのは年1回の定期演奏会。今年も、11月5日(土)に多摩市民館で開催します。第80回という記念の演奏会でもあるので、雅典さんにも何曲か指揮してもらい、ポピュラー曲からマンドリンオリジナル曲まで皆さんに楽しんでもらえるよう練習を続けているところです。また、創設者のマンドリン教室がルーツの「アンサンブルひろば」の皆さんとの合同演奏も企画しています。定期演奏会以外にも、川マンは10人前後のアンサンブルチームを組んで、老人福祉施設などでボランティアとして訪問演奏を実施しています。「コロナ禍で機会がぐっと減ってしまったけれど、今後はもっと、マンドリン音楽を知ってもらって楽しんでもらう機会を増やしていきたい。人前で弾くのは励みになりますし、出演するためには練習しなければいけません。やはり目標があったほうが部員のやる気も出ますしね」と田畑さん。精力的に活動を続ける川マンは部員募集中です。皆さんのおうちにも眠っている楽器はありませんか？

#### ■問合せ

川崎マンドリン倶楽部 代表 田畑 弘明

電話 : 090-4492-0240

メールアドレス :

batabata3298@tg8. so-net. ne. jp

ホームページ ⇒



## 真剣に楽しもう！ 「川崎ラージ球友会」



川崎ラージ球友会(以下、「川崎ラージ」と略)は、ラージボールの卓球サークルです。1997(平成9)年、「近隣の市にはラージボールのチームがあつて活発に活動している。川崎市でもラージボール愛好者が結束できないものか」と、当時、川崎市家庭婦人卓球連盟会長だった加藤妃生子さんが音頭を取って、市内のラージボール愛好者の会設立に向けて動き出し、同年5月に発足しました。

現在、40歳から93歳までの約30名が在籍しています。70代、80代の会員が多く、男女比はほぼ半々です。主に中原区と高津区の体育施設で月5～6回、真剣に、楽しく練習し、試合にも出場しています。

### ラージボールってこんな卓球！

卓球には硬式とラージボールの2種類があります。オリンピックや世界卓球、Tリーグなどは硬式の卓球になります。ラージボールは、卓球初心者や高齢者にも卓球の魅力が十分に感じられるように用具やルールが開発されて、1988(昭和63)年に誕生しました。ボールの大きさ、ネットの高さ、使用ラバー等が硬式とは異なります。

ラージボールは硬式球よりも少し大きくて軽く、色もオレンジ色が見やすいボールで、硬式よりも少し高いネット、表面がつぶつぶのラバーを貼ったラケットを使用します。ボールが大きい分、空気抵抗のおかげで硬式と比べてスピードが遅くなりますし、ネットが高いためボールの弧線が高くなります。つぶつぶラバーを使用するとボールの回転量が少なくなって打ち返しやすくなるため、ラリーが続きやすくなるのです。硬式よりも簡単に卓球のラリーを楽しめて、ラリーが



続く分運動量が増えるということで、健康・体力の維持、増進に適したスポーツといわれています。

◀白熱のラリーが続く練習風景

### さらなる上達を目指して

川崎ラージに所属し試合に出たいという人は、年齢別・ランク別のさまざまな大会の中から、それぞれに適した大会を選んでエントリーします。

練習計画全般を担当している浦木さんは、「試合形式の練習で、同じ人とペアを組まず、対戦相手も変わるように、対戦表を作っています。そして、B級、C級のランク別の成績をもとに、Bの最下位とCの1位を入れ替えたりするのです。そうすると、単なる楽しみで終わらないで、励みになるでしょう」と、運営の工夫を語ります。



▲軽やかなステップと迫力のスイング

また、スポーツによる健康増進と会員同士の親睦を求めている人も多く、初心者もいます。初心者は、最初の3カ月ほど皆とは別の台で基礎を指導してもらい、ある程度打てるようになってから合流します。

発足した頃から所属している会員お二人に長く続けている理由を聞くと、「まずは卓球が上手になりたい。身体を動かすのは気持ちいいし、ここに来て、皆さんに会えるのも楽しみ」と、うなずき合っていました。

### 身も心も若々しく！

最高齢は93歳の永井さん。「川崎ラージのゼッケンを背負って全国大会に出たいので続けています」と、力のこもった表情で話します。90歳の山田さんは一番の卓球巧者で動きも軽やか。ほかの会員への技術指導もしています。卓球は足も使うし頭も使う、身体と頭脳が同時に活性化されることを証明しているようなお二人です。

「会員はLINE(ライン)で連絡を取り合っています。皆、新しいことへの抵抗感はなく、誰かが『便利だよ』『いいよ』と言えばすぐに取り入れます。練習後の食事の時、ファミレスでタブレットから注文するのもお手の物です」と代表の箱木さんがサラリと話すのを見て、身体が元気だと気持ちもついてくるのだなと感心しました。

「今日できることは明日もできるように！」という川崎ラージの皆さんは、2時間動きっぱなしの練習をした後にもかかわらず、さわやかな笑顔でアフター(お食事)に向かいました。



▲川崎ラージのユニフォーム

#### ■問合せ

川崎ラージ球友会 会長 箱木 隆  
電話：044-797-3452

ホームページ ⇒



# 特集

**かわさき市民アカデミー**

# 川崎学 ~川崎って面白い~

市民の生涯学習と社会参加意欲に応えるため、専門的で継続的な学習と研究の場として1993(平成5)年10月に開学した「かわさき市民アカデミー」。“市民による運営”を目指し、認定NPO法人かわさき市民アカデミーが現在運営を行っています。社会科学・自然科学・人文科学の多分野にわたる講座やワークショップが実施されていて、年間延5,500人の受講生が学んでいます。

かわさき市民アカデミーの看板講座のひとつ「川崎学」。川崎学とはどのような学問なのでしょう。ちょっと覗いてみませんか。

川崎区 大師橋のたもとから見る多摩川スカイブリッジ

**かわさき市民アカデミー**の開学に際し、川崎市が策定した生涯学習推進の基本構想・基本計画の中で重視されたのは、地域の社会生活に密着した学習活動でした。「市民自治の発展」「人間都市川崎の創造への貢献」という理念を掲げて出発したかわさき市民アカデミー。この理念を具現化させるものとして、地域学としての「川崎学」が登場しました。



**副学長**  
成城大学名誉教授  
田中 宣一 先生

川崎学は、川崎のことを知るために、川崎に関じこもるのではなく、川崎と関連させながら、いろいろな角度から川崎を見ていく学習研究活動です。現在は、「歴史」「自然Ⅰ」「自然Ⅱ」「学び・歩く かわさき」の4つの講座と、1つのワークショップ「まち歩き」を開講しています。教室で講師の講義を聞く座学と、施設見学をしたりまち歩きをしたりする野外学習で構成されています。野外学習時には、「せっかくここまで来たのだから、解散後おいしいものでも」という受講生同士の楽しみもあり、自然に仲間ができていきます。

各講座はコーディネーターがテーマを設定して授業を組み立て、その内容にふさわしい講師を招き、コーディネーター自身も講師を務めます。野外学習の際には現地との交渉もするなど、コーディネーターの任は大変ですが、その方面に精通し、豊富な人脈をお持ちの方々が務めています。

世話人(受講生有志)の皆さんには、講座の運営でいつも大変お世話になっています。とても頼もしい、大きな存在です。

## コーディネーターは講座の要



**自然Ⅰ**  
多摩川流域自然史研究会代表  
増渕 和夫 先生

地形や地質を主に学習する自然Ⅰは、外から川崎を見るという視点で、野外学習では川崎市外に出て行くことが多く、あまり皆さんが知らない場所に行くようにしています。少しくらい足が不自由でも参加できるように、歩きやすいコースの設定を心がけています。



**学び・歩く かわさき**  
産業遺産情報センター研究主幹  
伊東 孝 先生

講座のあり方として、1回から12回まで関連した話で通してほしいとの要望があります。しかし第一線で活躍する現役の大学の先生に依頼するには、回数が多くなると難しい。そこで、縦系列ではなく、横系列の春・秋連続で、関係テーマを設定してカリキュラムを組んでいます。



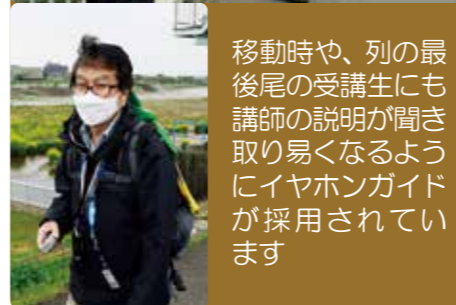
**【ワークショップ】まち歩き**  
日本地名研究所研究員  
菊地 恒雄 先生

7回の講座なので、多くの方が思い浮かべることができるものをテーマとして設定し、テーマを大切にカリキュラム編成をしています。昨年後期は「養蚕」、今年前期は「鶴見川」がテーマです。川崎といえば多摩川のイメージがありますが、鶴見川も深い関りがあります。

## 野外学習は「そうだったのか！」がいっぱい



かわさき市民アカデミーの旗の下に集合し、いざ出発！



移動時や、列の最後尾の受講生にも講師の説明が聞き取り易くなるようにイヤホンガイドが採用されています



まち歩き  
「鶴見川の特徴を示す地形・地質」



学び・歩く かわさき  
「菅の渡し場跡を歩く」

## 受講生の声

「とにかく講師陣がすばらしい。楽しみで仕方なくて、内容をしっかり理解するために、講義の前に入門書を買って勉強しちゃいました」

「座学で知識を仕入れた後に外に出るので、ただ歩くよりも多くの発見や気づきがあります。自分一人では行けないようなところに行けるのも嬉しい」

「座学だけだと眠くなっちゃうけど、次に野外学習があると思うと、座学も楽しく聞けます。年配の受講生が多いけれど、若い方にも勧めたいです。知っているのと知らないのとでは、生活の質のようなものが違ってくるのではないのでしょうか」

皆さん、講座受講の満足度が大変高く、「知れば知るほど川崎って面白い！」と、川崎学を心から楽しんでいる様子が伝わるお話しぶりでした。

### ■問合せ

認定 NPO 法人 かわさき市民アカデミー  
〒211-0064 中原区今井南町 28-41 川崎市生涯学習プラザ 3階  
電話: 044-733-5590  
F A X: 044-722-5761

ホームページ ⇒



多摩区

かわさき<sup>そら</sup>宙と緑の科学館

小田急線向ヶ丘遊園駅から徒歩 15 分  
溝の口駅南口・向ヶ丘遊園駅東口から市営バス[溝 11]  
生田緑地入口下車徒歩 5 分

宙も緑も市民とともに！



市民公募で選ばれた愛称「サイエンスプリン」

生田緑地に立地するかわさき宙と緑の科学館(以下、「同館」と略)は、1971(昭和46)年にまずプラネタリウム館が開館し、1983(昭和58)年に本館展示室がオープン、2021(令和3)年に50周年を迎えました。公害が問題となっていた当時、川崎の子どもたちに美しい星空を体験してもらい、科学への関心を高めてもらいたいという熱い思いから誕生した自然科学系の登録博物館です。2012(平成24)年にリニューアルオープンして、現在の姿となりました。

身近な自然を再発見



▲自然科学棟 館内の様子

自然科学棟1階展示室では、川崎の自然を「川崎の大地」「丘陵の自然」「街の自然」「多摩川の自然」「生田緑地ギャラリー」等のテーマでわかりやすく展示しています。まず目に入る

のは、実際の地層を約5分の1に縮小して再現した8mの地層タワー。生田緑地の地面の下にはこのように約100万年の歴史が積み重なっているのです。

南北に長い川崎市には、街や多摩川、生田緑地、それぞれの環境に適応した、たくさんの動物たちが生きています。昆虫、植物、両生類、爬虫類の標本やモデル、哺乳類、鳥類のはく製が、見る人のワクワク感を盛り上げるように展示されています。いろいろな角度からじっくり観察することができて、「モミジの種ってプロペラみたい」「この虫、意外とかわいい顔をしているね」と会話も弾むことでしょう。

きらめく星空に魅せられて

1階のプラネタリウムには、星のリアルさを追求し、本物の夜空で体験するような空気感を再現できる最新鋭のプラネタリウム投影機「メガスターⅢフュージョン」があります。川崎出身の世界的プラネタリウムクリエイターである大平貴之さんが同館のために開発しました。

プラネタリウムでは、毎月変わる科学館のオリジナル番組を専任の解説員による解説で楽しむことができます。また、大人の皆さんに人気の投影は「星空ゆうゆう散歩」(第3木曜日 午後1時30分から)。NHKラジオ「子ども科学電話相談」で活躍中の國司眞さんの穏やかな語り口に癒(いや)されて、とても勉強になると評判です。先着順なので、ご覧になりたい方は少し早めに行ったほうがよいかもしれません。

「学習投影」では、市内学校の校庭からの360度パノラマ画像(スカイライン)を投影して各学校の校庭から見える星空を再現し、方角を確認して学習することができます。



「メガスターⅢフュージョン」世界に一つ、同館にしかない、あらゆる時間、あらゆる場所での星空を再現できる投影機

ステキな発見、気づき、思い出を

広報担当の渡辺友貴さんは、子どもの頃に家族で何度も同館を訪れ、学生時代には同館でアルバイトをし、社会人になってまた戻ってきたという、まさに青少年科学館の申し子。「ここは私にとってかけがえのない科学館。これからも、来館される皆さんの科学への興味・関心を高めるような発信をしていくことで、皆さんそれぞれのステキな発見、気づき、思い出をお持ち帰りいただければ嬉しいです」と、少年のような笑顔で話していました。



▲人気の撮影スポット D51 形蒸気機関車



▲サイエンスワークショップ



▲アストロカー

子どもから大人まで 科学の楽しさを！

同館では、科学系のボランティア団体と協力してさまざまな教室・講座・観察会を開催しています。毎週土曜日、整理券方式・入替制で簡単な工作・実験を行うサイエンスワークショップや、事前申込制のサイエンス教室などのイベントがあります。市内の学校団体などを対象に行うかわさき星空ウォッチングではアストロカーが出動します。内容や申し込み方法など、詳しくは同館のホームページをご覧ください。

■かわさき宙と緑の科学館 サイエンスプリン

ホームページ

〒214-0032 多摩区枳形 7-1-2

電話:044-922-4731

開館時間:午前9時30分から午後5時

休館日:月曜日(祝日の場合は翌火曜日)

祝祭日の翌日(土日・祝日の場合は開館)

12月29日から1月3日・館内点検日

入場料:無料(プラネタリウム観覧は有料)



中原区

## 川崎市平和館

JR 南武線・横須賀線「武蔵小杉駅」

東急東横線「武蔵小杉駅」「元住吉駅」から 徒歩約 10 分

## 平和を願い、非平和に思いを巡らす



緑豊かな中原平和公園の一角に、川崎市平和館(以下、「同館」と略)が静かに佇んでいます。川崎市が、平和都市の創造と恒久平和の実現に寄与するために米陸軍出版センター跡地に建設し、1992(平成 4)年 4 月 15 日(川崎大空襲の日)に開館しました。

## 平和学的な展示デザイン

皆さんご存じでしょうか。平和博物館・平和資料館といわれる施設の数がいちばん多い国は日本。なんと世界の 4 分の 1 以上の施設が日本にあるそうです。平和博物館というと、多くの人が過去の戦争に関する品々を展示している施設を思い浮かべるかもしれません。もちろん戦争は生きるという最低限の権利を組織的に奪う究極の非平和です。それは間違いありません。では、戦争さえなければいいのでしょうか。貧困や差別、環境汚染など、人間の尊厳ある生を損なう幅広い問題を非平和と捉え、考察する平和学という学問があります。同館は平和学的な展示デザインの施設です。

同館 2 階常設展の入口では平和に関連する世界の格言を紹介していて、「平和ってなんだろう」と考える導入部分となっています。導入部の後は、川崎と戦争をはじめ、日本と戦争、兵器と戦争、国家による弾圧、現代の紛争、メディアと紛争、貧困、差別、環境問題など、パネル解



▲常設展  
「川崎と戦争」コーナー

説や映像資料、実物や模型の展示によって「非平和」「平和」を考えます。最後のコーナーでは、ここまでに見てきたさまざまな非平和に対応させる形で、平和の建設を目指した取り組みを紹介しています。

## 兵器と戦争コーナー



「核弾頭と地球」  
核弾頭 500 発ごとに人が住めなくなる範囲がどのくらいなのか、地球の模型が赤く光って示します。地上には 13,000 発以上の核弾頭があり、地球が何度も滅亡してしまうほどの数が存在していることがよく分かります。

## 参加型の平和教育

同館は参加型の平和教育にも取り組んでいます。小・中・高校等で出前授業を行ったり、出前授業を通して生徒たちが考えたことを同館で展示したりして、生徒たちと一緒に非平和を考え、話し合う場を作っています。

企画展も参加型です。毎年時事的な平和問題も参考にキーワードを決め、それに沿っ

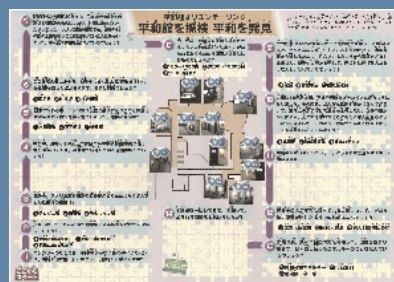
てミニ企画展を 2 回、企画展を 1 回開催しています。昨年度は「排除」をキーワードにしました。コロナ禍など災害時は、不安や恐怖感が暴力的な排除の言い訳に使われてしまうことも少なくありません。そこで、1 回目のミニ企画展「コロナ禍の気持ち」では、中高生がコロナ禍の気持ちを表している顔のイラストを描いた作品を展示しました。2 回目のミニ企画展は、中高生が考えた排除に抗するための平和教育プログラムをパネル展示し、関連イベントでは、一般来場者も交えて、自分たちの作ったプログラムを実際に体験し合いました。企画展は、さまざまな社会的排除にさらされる人々を写した写真展「非平和展」と、映画上映会を開催しました。

同館専門調査員の暉峻(てるおか)僚三さんは、「平和や人権は、自分のこととして考えて、話すことが必要なので、面倒くさいと感じる人も多いでしょう。ただ、平和で持続可能な社会を築くためには必要なことだと思います。いろいろな非平和について知り、考え、語り交わして、その非平和を平和にどう転換させていけるのかを模索できる施設にしていければと思っています」と話していました。



◀1982(昭和 57)年 6 月 8 日、全国の都道府県・政令指定都市に先駆けて核兵器廃絶平和都市宣言を行った川崎市。「核兵器のない平和な世界」の実現を願い、2015(平成 27)年に被爆樹木の二世を植樹しました。  
左)被爆アオギリ二世(広島) 右)被爆クスノキ二世(長崎)

## オリエンテーリングシート



館内では、このシートを手に見学している子どもたちを見かけます。質問の答えを探したり、自分の考えを書いたりしながら館内を見て回り、最後に平和の意味を考える同館オリジナルの教材です。

## ■川崎市平和館

〒211-0021 中原区木月住吉町 33 番 1 号

電話:044-433-0171

開館時間:午前 9 時から午後 5 時(常設展示場)

午前 9 時から午後 9 時 30 分(会議室など)

休館日:月曜日、第 3 火曜日

(祝日の場合はその直後の平日)

12 月 29 日から 1 月 3 日

入場料:無料(会議室は有料・申込はふれあいネットから)

団体見学:事前にご相談ください

ホームページ



# 陶芸作品ができるまで(手びねい編)

まずはどんな物をどんな粘土で作るかを決めます。粘土によって、作るものによって、より良い作り方があります。

監修 陶芸家 三宅直子(水曜教室講師)

## ① 土練り(荒練り・菊練り)

粘土を形作る前に、粘土内の水分や成分を均一にし、空気をぬくために行います。



## ② 成形

今回は信楽土(白)を使った器を作ります。やや大きめの器にしようと思いますので**ひも作り**という技法を用います。



## ③ 削り

②で形作った粘土が少し硬くなったところ(2~3日後)で、様々な道具を使って削り、仕上げます。



## ④ 乾燥→焼成(素焼き)

自然乾燥で一週間ほど乾かした後、窯詰めをし、約800℃まで10時間ほどかけて温度を上昇させて焼き上げます。



## ⑤ 下絵付け→釉掛け

専用の顔料や下絵の具で素地に絵付けをします。その後、作品に釉薬をかけて(施釉)本焼きへと進みます。

作品の風合いや使用した粘土と釉薬との相性、焼き上がりの見栄えなどを考えながら施釉を行い、色や質感の変化を楽しみます。



## ⑥ 本焼き

1,230度~1,250度くらいまで12時間ほどかけて温度を上昇させて焼成します。4~5日後に窯から出てくる作品に出会う時がドキドキの瞬間です。思いもよらなかった自分の作品に出会い、その驚きが更なる創作意欲へとつながります。ぜひ一度、挑戦してみてください。



▲本焼き前



▲完成作品

## 当プラザでの『陶芸教室』

- ・初心者陶芸教室 年3回 春・秋・冬 1コース 全4回
  - ・水曜、土曜教室 年3回 春・秋・冬 1コース 全12回
- 但し、秋は半期6回も有り

## ◆お楽しみコーナー



### Stage Up 242号クイズに答えよう!

かわさき宙と緑の科学館には、世界に一つしかないプラネタリウム投影機「○○○○○Ⅲフュージョン」があります。

下の○にあてはまる言葉を入れてください。

『○○○○○Ⅲフュージョン』※ヒントp.6

正解者3名に500円の図書カードを贈呈(発表は発送に代えさせていただきます)



#### 【応募方法】

- ①答え ②〒・住所 ③氏名 ④Stage Upの入手場所
- ⑤今号の誌面でよかった記事(理由)を書いて、はがき、FAX、Eメールで担当宛、応募してください。

※締切 2022年8月22日(月)必着

〒211-0064 中原区今井南町28-41  
川崎市生涯学習財団 Stage Up(ステージアップ)担当  
Eメール:stage-up@kpal.or.jp  
TEL 044-733-5811 FAX 044-739-0085

※個人情報、発送業務以外の目的では使用しません。

☆241号のクイズの答え・・・柊形